

つながり、育む
これからの暮らし



アンドンチー



株式会社未来企画 福井 大輔

簡単な自己紹介

1983年塩釜生まれ 35歳 3児の父

仙台市立東華中 → 仙台一高

早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科

小学校2年生から高校まで塩釜FCでサッカーをする

中学3年全国ベスト8、高校も全国大会出場

小6～高校2年生までは宮城県選抜

大学ではサッカーサークル、国際協力活動系も取り組み

2006年ケニア政府系の社会林業研究所へインターン留学
学生を終えるまでに、20か国を訪れる

2008年4月～2013年9月 住友商事東北株式会社（金属G）

2013年10月 株式会社未来企画 代表取締役就任

- ・ NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ 副理事長・事務局長
- ・ Over the Wall世界壁画プロジェクト
- ・ NPO法人まちあす 代表理事
- ・ 社会福祉法人ウエル千寿会 評議委員



設 立 2011年8月

職員数 85名（パート含む）

事業内容



- ・ **介護事業**

- 小規模多機能型居宅介護

- 居宅介護支援事業所

- 訪問介護

- サービス付き高齢者向け住宅

- ・ **障害者福祉事業**

- 就労継続支援B型事業

- 放課後等デイサービス

- ・ **幼児教育事業**

- 企業主導型保育園

- biima sports（パートナー事業）

- ・ **メディカルサポート事業**

医療法人モクシン 堀田修クリニック(HOC)



開 業 2011年9月

住 所 仙台市若林区六丁の目
南町2-39

診療科目 内科疾患全般、腎疾患、
小児科、訪問診療、訪問看護

理事長 堀田 修(ほった おさむ)

職員数 40名(うち医師4名、
非常勤歯科医2名)

地域の社会課題に多層的なアプローチで 住みやすい地域へ

地域づくり

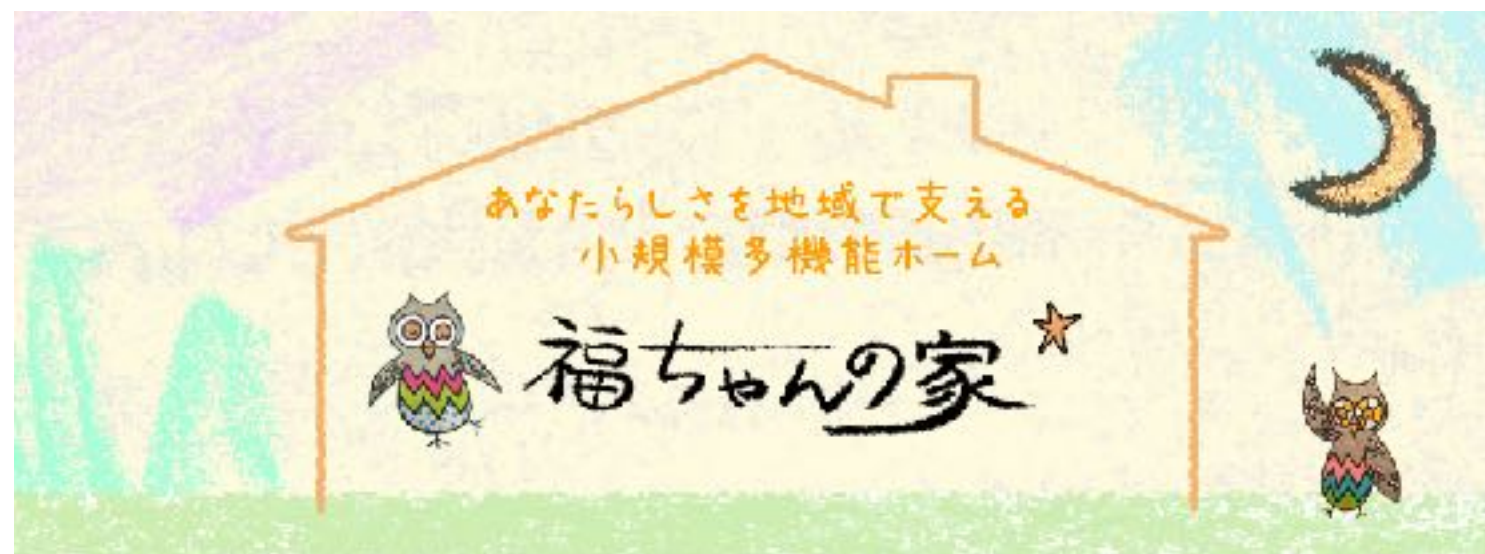
地域教育

子供・障害者支援

介護・看護

医療

2015年7月から若林区荒井にて小規模多機能型居宅介護をスタート



この事業所がここにあった！と言ってもらえる事業所を目指しています

認知症が悪い？！
環境や社会の理解が
足りないのでは？





「認知症の高齢者」ではなく、一人の「人」

いかにして、その「人」の暮らしに
寄り添い切れるか

これからの支援とは・・・

その人〔に〕何が出来るか



その人〔と〕何が出来るか

医療・介護等の仕事は当然だが
その人の暮らし・生活を
支えるためには
地元でのつながりや集まり等
地域資源を上手に使うことが
必須となる



多くの高齢者やご家族と接する中で、
「家族でなければならない部分は多いが、
もっとサービスや地域でサポートして
楽しく幸せに過ごせないだろうか？」という疑問を持ち
より良いサポートの形を模索しています。



子どもたちに
どういう未来を
繋いでいくか

医食住と学びの多世代交流複合施設

アンドンチ

2018年7月 1 日オープン



住みたいニーズ と 看護小規模多機能へ

グループホームと看護小規模多機能



高齢者の「暮らし」
を考えた時
建物完結型の
施設生活って
幸せなのか？



ただただ
残された時間を
浪費して
ないか？

医療介護も予防へ 暮らしの保健室の活動

暮らしの保健室と飲食（ライフスタイルの提案）

- 地域のみなさまからの健康に関するご質問、生活にかかわるさまざまな相談に応じます。地域の医療・介護状態を熟知した相談員（医療・介護従事者）が当番で担当いたします。
- 医療コーディネーターとしての機能を持ちます。在宅医療も理解した看護師が相談を受け、病院と地域のお医者さんの橋渡しをします。
- がん患者さんとそのご家族の相談にのります（平日13時～16時30分受付）
- 地域包括支援センターとも連携し、地域のみなさまを支援する窓口となります。
- 地域の方々や、診療所のお医者さんに、介護、福祉の情報を提供いたします。お医者さんからのご相談にも適切に対応できる窓口を目指します。

お茶を飲みながらゆったりすごせる 地域のみなさまに開かれた場所です



健康や地域医療、
介護に関する勉強会を
開催します



ボランティアスタッフが
お迎えします
地域の医療機関の検索も
できます

薬剤師がお薬の
飲み合わせの
相談に応じます
(金曜午前中)





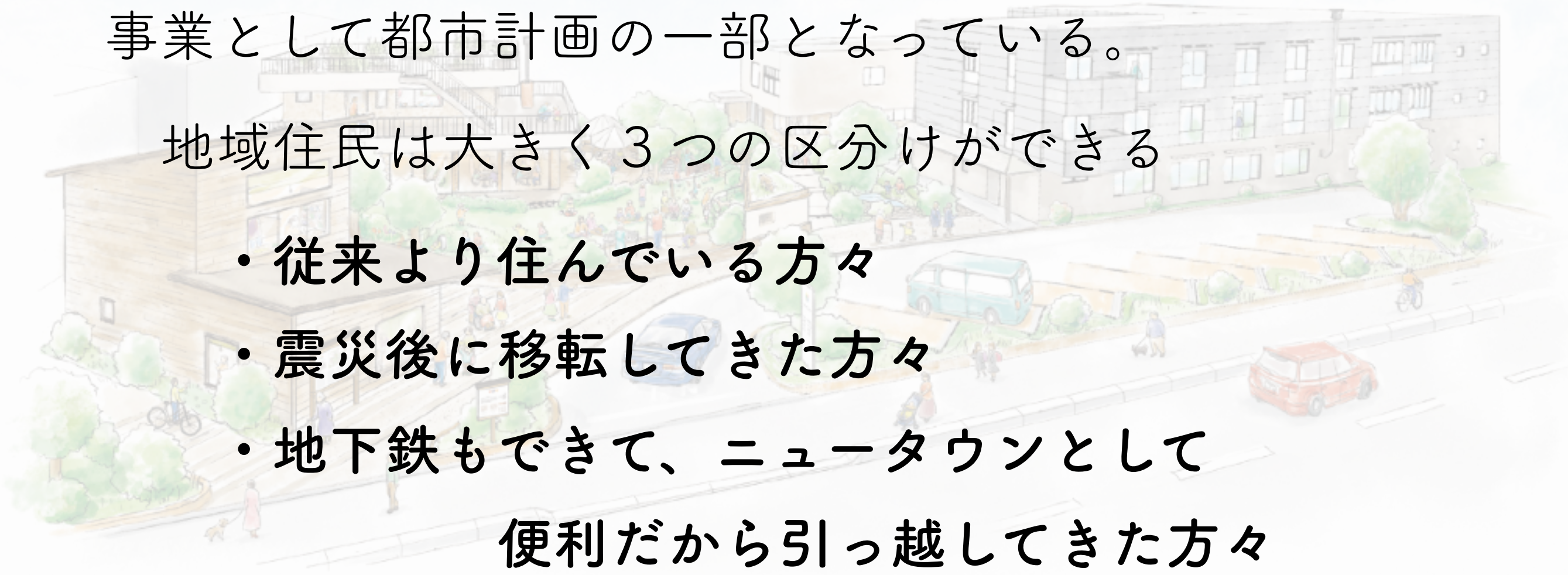


地域の状況

震災の集団移転地域でもあり、仙台市の土地区画整理事業として都市計画の一部となっている。

地域住民は大きく3つの区分けができる

- ・ 従来より住んでいる方々
- ・ 震災後に移転してきた方々
- ・ 地下鉄もできて、ニュータウンとして
便利だから引っ越してきた方々





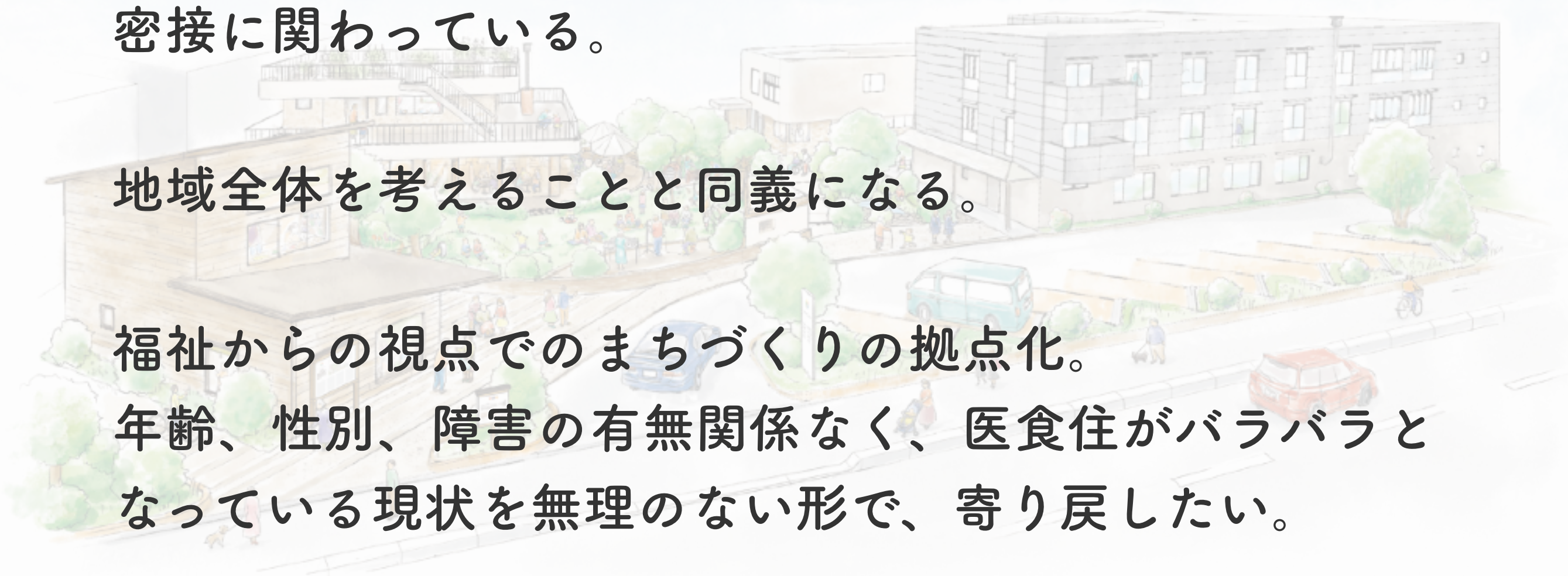
課題認識

「介護」を深く考えていくと、その方の生活や暮らしと密接に関わっている。

地域全体を考えることと同義になる。

福祉からの視点でのまちづくりの拠点化。

年齢、性別、障害の有無関係なく、医食住がバラバラとなっている現状を無理のない形で、寄り戻したい。





コンセプト

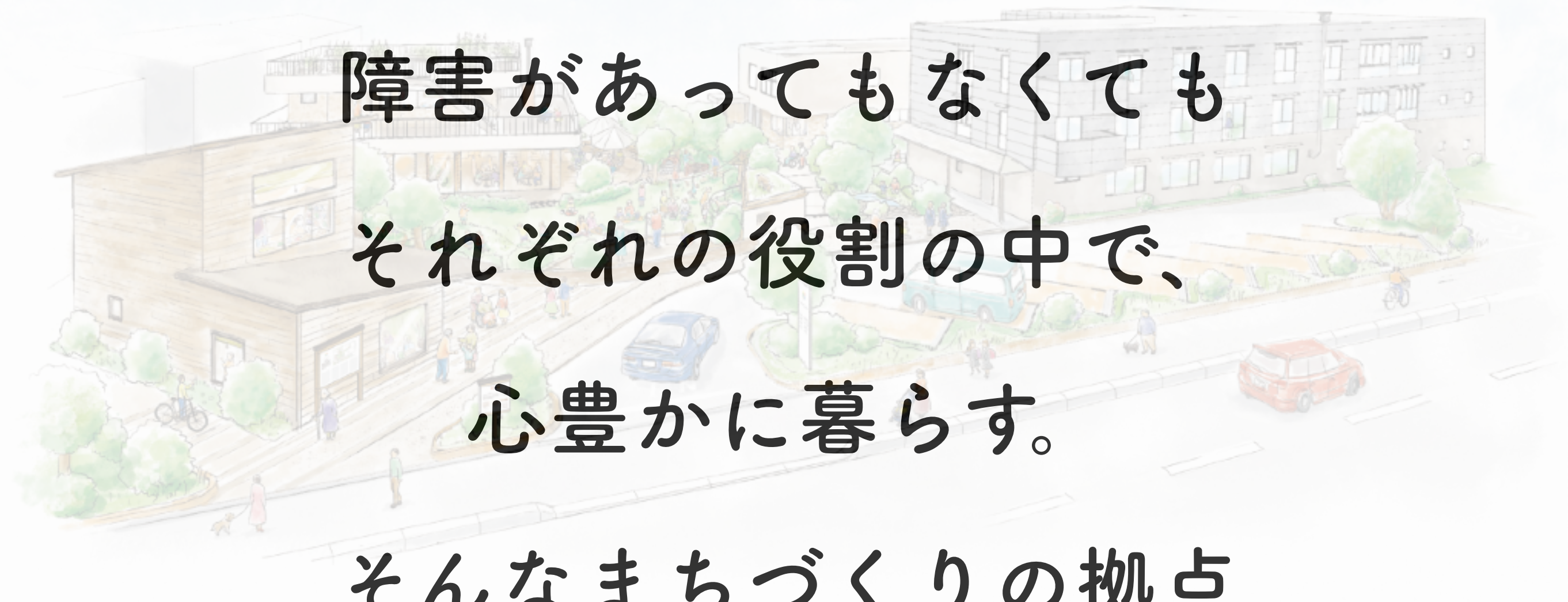
赤ちゃんからお年寄りまで、

障害があってもなくても

それぞれの役割の中で、

心豊かに暮らす。

そんなまちづくりの拠点

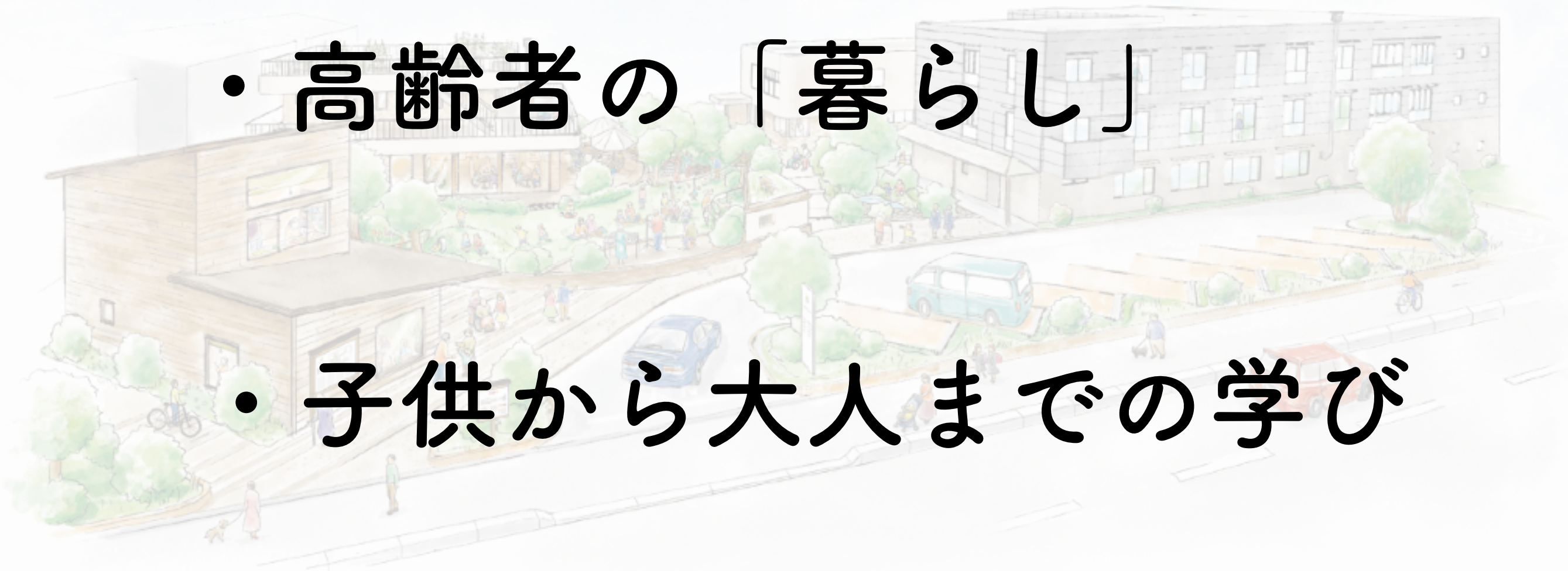




コンセプトメイキング

・高齢者の「暮らし」

・子供から大人までの学び





アンダンチ

サービス付き高齢者住宅

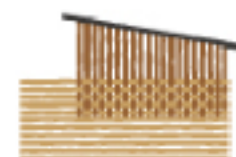
看護小規模多機能型居宅介護

就労支援 / コミュニティスペース

アンダンチ
- Residence -



HOCカンタキ



アスノバ

飲食 / 物販

企業主導型保育所

駄菓子屋（サービス付き高齢者住宅内）

寝かせ玄米と日本のいいもの



アンダンチ保育園

駄菓子

福のや

アンドンチという「場」を持ったことで、地域の声が聞けるようになった。建物完結型にせず福祉施設と地域との接点となる賑わいづくりに取り組んでいる。





目指すもの

少子高齢化が進み、多死時代を迎える日本において、様々な状況の人が楽しく幸せに豊かに過ごして、最期を迎えることが出来る社会を創ることが、高齢者のみならず、今の子供世代にとっても非常に重要であると考えている。

色々な状況の人が幸せに過ごせる場、世代がしっかりと繋がっていく場を創り出し、一人ひとりが心地よいと感じる地域の縁側のような、私たちが考える明るい未来へとつながる21世紀の新しい暮らしを提案して参ります。

新たな「暮らし」の提案 と 地域の方が行き交う場所を目指し
まだまだ試行錯誤していきます



日常の情報発信をぜひチェックください